

## 情報の中核を担う日本とトルコ

トルコのエルドアン首相が平成 26 年1月初めに来日する事が発表されました。平成25年5月と10月に安倍首相が訪問し、まだ半年もしない内に3度目の首脳会談です。ヒッタイト文明の発祥の地、トルコはアジアとヨーロッパの接点にあり、古くから要衝の地と云われており、そこにくさびを打つような安倍外交です。

平成 25 年6月に香港で、米国の諜報活動を暴露したスノーデン氏。CIAの情報収集の実態をマスコミに発表して、世界各国への盗聴やスパイ活動が明らかになり、米国への不信が高まりました。それを受けて日本では秘密を漏らした公務員への罰則を強化する特定秘密保護法案が成立し、1年以内に施行されます。情報漏洩に対する法案が急いで法制化された裏にはどんな状況があったのでしょうか？

情報先進国といわれる米国は、スパイ衛星や象のオリと呼ばれる巨大アンテナで世界の通信を傍受したり、いたるところにある防犯カメラで24時間監視体制をしいています。フェイスブックやユーチューブなどの民間企業からも情報を得ていた事も明らかになりました。日本は情報収集では米国頼りで遅れているように見えますが、実は情報活動で一番重要なのは、集められた情報を如何に分析して真実に迫るかです。一つ一つの情報の点を、線から面にするのが肝心です。日本は情報収集力では劣っているのですが、分析、解読で補ってきました。公にはされていませんが、今では情報活動の中核的インテリジェンス活動ではトップかも知れません。米国のハード面が暴露されたので、日米のソフト

面の情報を暴露されないように、早急に秘密保護法案を法制化したと考えられます。情報を読み解くには暗号解読のように数学的才能が必要であると、数学者でありエッセイストの藤原正彦氏が述べています。日本では西洋の数学より進んでいたと言われる和算の歴史があり、世界的な数学者を沢山輩出しています。日本の情報分析、解読力は並大抵ではないと考えられるでしょう。

第2次大戦の後、日本は米ソ冷戦構造の中、押しつけられた平和憲法を逆手にとり、どこの国とも取引する八方外交で、民生品市場で世界を席卷しました。

サイバー空間での情報戦争の真ただ中においても、分析力解読力で情報を統合する中核を握っている日本の頭脳が、どこにでも輸出できる動画ソフトやゲームソフトや医療ソフトなどの企業を創り活躍しています。

安倍外交の注力するトルコは、ブルガリア、ギリシャ、グルジア、アルメニア、イラン、イラク、シリアと国境を接し東西の情報の集積地です。日本とトルコの友好はまさに情報の中核のハード面とソフトの融合です。日本の情報産業の中核はNTTです。長い目で見るとおもしろそうです。



平成25年12月18日  
(株式講演家 三木文佑)

株式講演会の出張講演致します。  
少人数でも喜んで。

090-5154-0515

